



巻頭言

「医学教育」

近畿大学医学部堺病院長

近畿大学医学部眼科学教授

下村 嘉一

最近、教育の荒廃が指摘され様々な論議がされていますが、本稿では日頃から私が抱えている医学研究における教育について述べてみたいと思います。

医学研究において、最も重要なことは、真実真理を追求する確固たる信念を養うことでもあります。そして、我々臨床教室における理想的な研究というのは、臨床経験から生じたり、感じた疑問や興味を積み重ね、それらを基に学術論文を読破し、基礎研究に発展し、さらに新しい診断や治療における技術や方法の開発を目的とし、基礎および臨床研究を積み重ねていくことであると常日頃から教室員に教育しております。



研究というものは、教室内のみで討議論議していたのでは独り閉鎖的で、積極的に国内外の研究者や研究施設との交流を深め、特に海外留学の機会の充実を企画し、より大きな国際的かつ学際的知識や技術を吸収できる環境を整備する必要があります。

研修医が大学や関連病院での臨床教育を終了するまでの間に、多くの症例疾患に遭遇するように各施設で高度に配慮し、同時に、各疾患に対する基本的な考え、知識、検査や外科系では手術における基礎的な理論、手技を十分に認識、習熟させる必要があります。さらに、臨床教育として重要なことは、患者との接遇を学ばせる点にあると考えます。関連病院を含め、コメディカル全員で常に理想的な医療について考え、向上心を養い、絶ゆまぬ努力を惜しまない姿勢を構築することが重要な核であると考えます。

私は、教育というものは、上からの押しつけではなく様々な情報を我々が学生や研修医に対して提供することであると考えております。彼らが、何を研究、専門分野とするか、疾患に対しどのような考え方を持つか、等々について自分自身の考え方を無理強いするのではなく、多くの情報、方法、知識、アプローチの選択を彼らに提供し、彼らが考慮できる領域、幅を増やし、その中から自分自身の考えで行動できるような環境作りの整備が最も重要であると確信しております。

最後に、大学教育においては、学生、研修医に対して社会常識を教えることも重要であると考

えます。最近、幾つかの大学で彼らを巻込んだ民事事件が発生し、マスコミを賑わしています。医師も社会の構成員であり、社会の中で一般生活を暮らしている以上、社会常識に欠けるということは好ましくありません。私自身も、教室員と共に、時には教えられながら成長するというシステムを構築し、優秀な医師で且つ社会人を育成する教育体制を築くことを、大学教育の基本であると絶えず念頭に置いております。